

授業の具体的展開例

〈自分の考えを発表する場面〉

T：四角形の内角の和が 360° になると説明できる人は発表してみましょう。

T：どんな方法で考えましたか。

C：まず4つの角度をそれぞれ分度器で求めると、 120° 、 80° 、 85° 、 75° とわかりました。次にそれぞれの角度を足し合わせて、 360° になりました。

T：他にはどんな方法がありますか。

C：まず四角形を二つに切ると、三角形が2つできます。三角形の内角の和は 180° なので二つ分を足すと $180+180$ で 360 になります。なので四角形の内角の和は 360° と言えます。

T：そうですね。では、四角形の頂点から頂点に向かってななめに引いた線のことを何と言いましたか。

C：対角線！

T：そうでしたね。それでは他の方法で説明できる人はいますか。

C：まず四角形をはさみで4つに切ります。次にそれぞれの角が中心に集まるように並べ替えました。すると円の形になります。縁の角度は 360° なので四角形の内角の和も 360° になります。

T：素晴らしい！ではどの考えが一番簡単に正確に求められますか。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時では四角形の内角の和を求めることを行う。そのための様々な方法を認めながらも、対角線を引いて三角形二つ分として四角形をとらえて内角の和を求めることがいかに合理的であるかを気付けることが大切である。また、それらの方法を相手に分かるように、文や図に根拠を示して、筋道立てて表現させることにより、思考力、表現力を伸ばす。

「活用」の力を評価する具体的な観点として、次のような場面を取り上げることができる。

- ①三角形の内角の和を適用し、四角形の内角の和の求め方を考えることができたか。
- ②自分の求めた方法を図や文を使って分かりやすく表現することができたか。

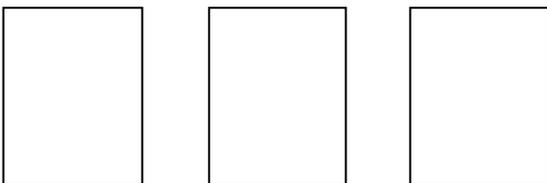
これらが未達成の状態の児童には、十分な個別指導が必要である。①或いは②の状態になるよう、自力解決の時間、授業後半の交流や形成的な評価問題の場面を充実させる。さらに振り返りでは、学びを整理させるとともに、既習事項を活用できる問題設定や既習事項を使って説明する力を育てる。



板書例

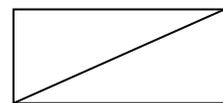
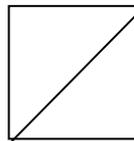
三角形と四角形

四角形の4つの角の和が 360° になることを確かめよう。

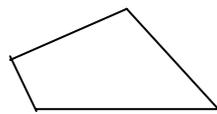


四角形の4つの角の和は、三角形に分けて考えることができる。

Q



Q 次の角を求めよう。



本時の流れへ

評価問題

単元の流れへ

HOME